

令和五年度卒業式式辞

校内の桜も、開花を待ちわびる今日の良き日。多くの来賓の皆様、御臨席と、また多くの保護者の皆様の御来場を賜り、本日盛大に卒業証書授与式を挙行できますこと、そして三年生全員が晴れて卒業を迎えますことは、大変喜ばしい限りです。

令和六年（二〇二四年）は、天明四年（一七八四年）の藩校修猷館の開校から二百四十周年を迎えます。その意味でも今回は一つの節目の年の卒業式でもあります。

卒業生諸君、修猷館での年月は、君たちを大きく成長させたことでしょう。館歌に歌われる「文に武に」の言葉どおり、君たちは様々な活躍を見せてくれました。新型コロナウイルスの影響下で、三分の二の期間は、いろいろな制限が加わりましたが、この一年間は思い切り活動できたのではないのでしょうか。様々な行事などでの、君たちの潑刺とした活躍は、私たちにも力を与えてくれました。

ただ、君たちの真価が問われるのはこれからです。ここ修猷館で培ったものをどう生かすか。百四十年前、藩校閉校から十三年余りの年月を経て再興された、英語専修修猷館の開館式で、初代隈本有尚館長が生徒に向けて話した言葉が残っています。その一部を紹介します。

「生徒諸子、今日、この館の授かる所を以て満足せず。他日更に専門の学芸を修め、各個の業務に就き、以て国家の為に尽くすあれ。」

百四十年の時を経てもなお、修猷館の方向性は変わっていません。

保護者の皆様、お子様の御卒業おめでとうございます。生徒の活動を支えていただいただけでなく、修猷館の教育活動にも、十分御理解と御協力をいただきました。また、同窓会の皆様、毎年の生徒の活動や環境整備などへの御支援等ありがとうございました。保護者の皆様と同窓会の皆様、皆様方の御支援のおかげで、この伝統ある修猷館が保たれていることと、大変感謝しております。

終わりに当たり、ここにお集まりの皆様の御多幸と御健勝とを祈念いたしますとともに、卒業生と修猷館のますますの発展を願い、式辞といたします。

令和六年三月二日

福岡県立修猷館高等学校 第三十四代館長 中神智文